

変わる、変える

「ものづくり」から
「ことづくり」へ。

2022年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

株式会社コア
2021年7月30日





決算概要

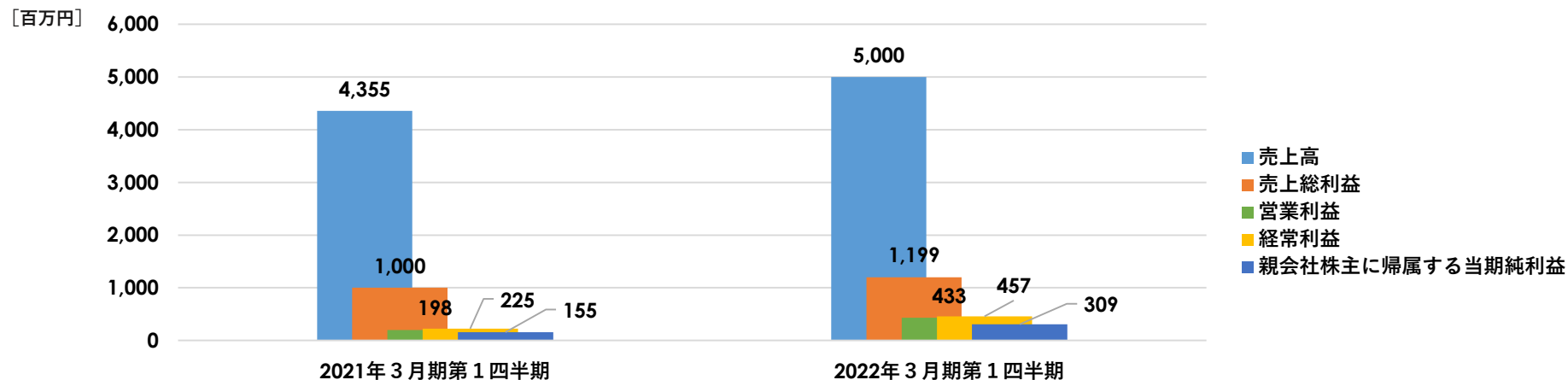
決算概要

当第1四半期連結会計期間より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しております。そのため、開発プロジェクトの進捗度に応じて売上高および利益の計上を行うため、従来検収後に一括計上していた案件を前倒しで計上しております。当該基準による影響等は8頁をご覧ください。

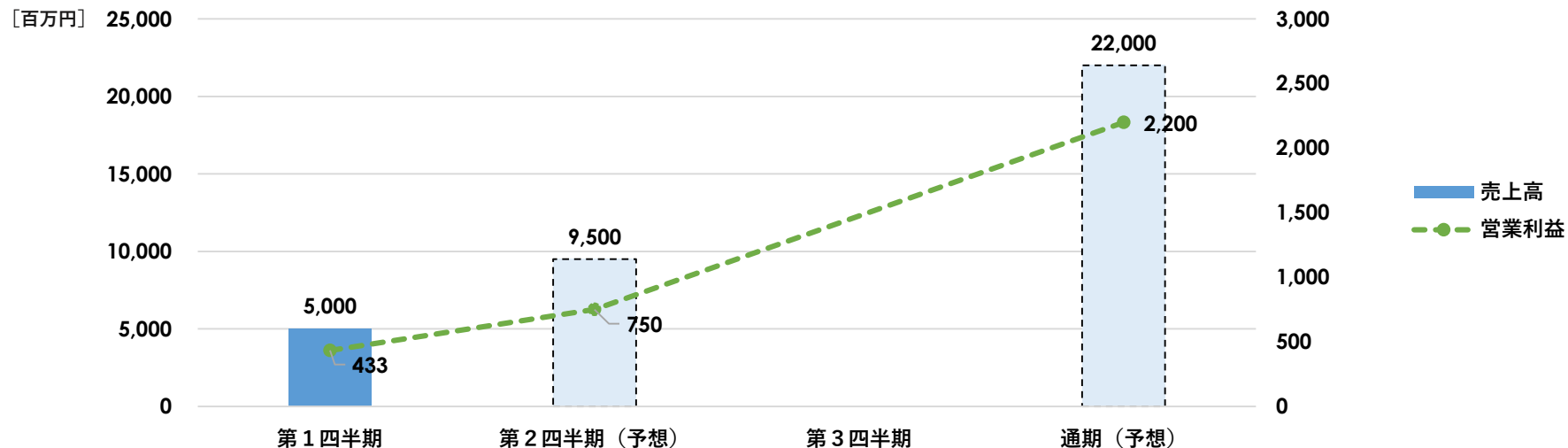
科 目	2021年3月期 第1四半期		2022年3月期 第1四半期	
	金額	前年比	金額	前年比
売 上 高	4,355 百万円	100.9%	5,000 百万円	114.8%
売 上 総 利 益	1,000 百万円	104.8%	1,199 百万円	119.9%
営 業 利 益	198 百万円	138.0%	433 百万円	218.7%
経 常 利 益	225 百万円	148.6%	457 百万円	202.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	155 百万円	152.7%	309 百万円	198.5%

決算概要

前年同四半期比



2022年3月期の連結業績予想



決算の増減要因

売上高

↗ 前年比**114.8%**

- ⊕ 要因 ▶ コアビジネスが成長エンジンとなり、ソリューションビジネスを牽引
- ⊕ 要因 ▶ 電力会社向けソリューションの好調によりエネルギーが伸長
- ⊕ 要因 ▶ 公共でのデータ利活用ソリューションが堅調に推移
- ⊕ 要因 ▶ S Iビジネスでの物流、金融分野での開発案件が好調
- ⊖ 要因 ▶ S Iビジネスでの車載、情報家電といったエンベデッド系事業の縮小

営業利益

↗ 前年比**218.7%**

- ⊕ 要因 ▶ S Iビジネスからソリューションビジネスへの転換により利益拡大
- ⊕ 要因 ▶ 社内システムへの開発投資が終結

事業区分別の業績

		2021年3月期 第1四半期		2022年3月期 第1四半期	
		売上高	売上総利益	売上高	売上総利益
ソリューションビジネス	メディア	199 百万円	27 百万円	317 百万円	26 百万円
	公共	91 百万円	36 百万円	196 百万円	66 百万円
	医療	74 百万円	10 百万円	121 百万円	8 百万円
	GNSS	12 百万円	7 百万円	39 百万円	13 百万円
	IoT (AI)	168 百万円	49 百万円	241 百万円	77 百万円
	エネルギー	127 百万円	43 百万円	284 百万円	85 百万円
	DXインサイト	13 百万円	2 百万円	42 百万円	6 百万円
	提案型SI	1,157 百万円	330 百万円	1,306 百万円	392 百万円
ビジネス	エンベデッド系	1,286 百万円	283 百万円	1,129 百万円	271 百万円
	ビジネス系	1,203 百万円	202 百万円	1,303 百万円	242 百万円

連結貸借対照表

	2021年3月期 第1四半期		2022年3月期 第1四半期	
	金額	前年比	金額	前年比
流動資産	9,114 百万円	112.8%	9,581 百万円	105.1%
固定資産	8,631 百万円	97.6%	8,511 百万円	98.6%
資産合計	17,745 百万円	104.8%	18,092 百万円	101.9%
流動負債	5,545 百万円	107.4%	5,280 百万円	95.2%
固定負債	1,254 百万円	72.6%	562 百万円	44.8%
負債合計	6,800 百万円	98.7%	5,843 百万円	85.9%
純資産	10,945 百万円	108.8%	12,249 百万円	111.9%
負債・純資産合計	17,745 百万円	106.1%	18,092 百万円	101.9%

「収益認識に関する会計基準」 (企業会計基準第29号 2020年3月31日)

本基準では「収益は履行義務を充足した時に認識すること」と定義されており、本基準の適用に伴い、請負契約・準委任契約は原則すべて「原価比例法」により売上を計上することとなりました。

「原価比例法」は、契約に基づく開発作業を進めていくにつれ顧客に対する履行義務が充足されていくとの考えに基づき、一定の基準（受注額の確定、原価総額の確定、進捗状況の把握）を満たしたものについて、成果の確実性が認められることを前提に、見込総原価に対する発生原価の比率（進捗率）に相当する売上を計上する方式となります。

当社グループが手掛けるソフトウェア開発等の受託業務は請負契約・準委任契約が大部分を占めているため、売上や利益の計上が前倒しになる等、本基準の適用による影響が大きくなっています。

そのため、当第1四半期連結累計期間では売上高で515百万円、売上総利益、営業利益、経常利益はそれぞれ179百万円の増加となりました。

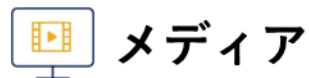
当該影響を考慮した場合の当第1四半期決算概算数値は下表の通りとなります。

科 目	2021年3月期 第1四半期		2022年3月期 第1四半期	
	金額		金額	影響額
売上高	4,355	百万円	5,000	百万円 (515 百万円)
売上総利益	1,000	百万円	1,199	百万円 (179 百万円)
営業利益	198	百万円	433	百万円 (179 百万円)
経常利益	225	百万円	457	百万円 (179 百万円)



TOPIX

Select Topics コアビジネスの注目トピックス



メディア

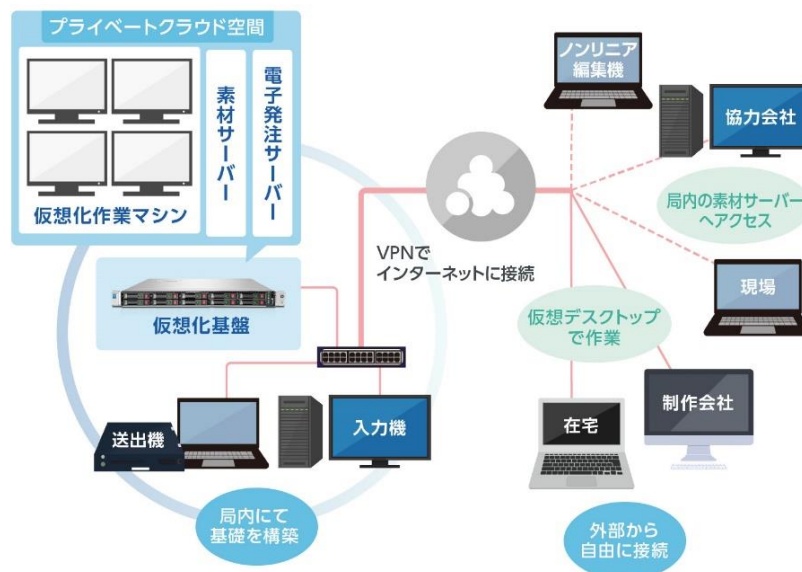
テロップの在り方を変える『仮想化ソリューション』

全てのソフトウェアをクラウド上に構築し共有化可能で、作業する端末を選ばない“いつでも、どこでも、なにからでも”、テロップの入力環境を提供する「仮想化ソリューション」をご提供しています。

Page

<https://www.lambda.co.jp/reco/solution.html>

事例

東海テレビ放送株式会社様 <https://www.lambda.co.jp/inter/thk.html>

プライベートクラウド構成例

Select Topics コアビジネスの注目トピックス

**専門医師の監修のもとで開発された高齢者の薬剤チェック機能を搭載したクラウドサービス『らくすり（らくすり）』**

高齢者の薬剤適正化をもっと簡単に!もっと安全に実現できるよう、医師、薬剤師をはじめ専門家の監修のもと、「らくすり」を開発。厚生労働省が推進する「LIFE（服薬管理）」に連携対応可能です。

事例

医療法人緑の風 介護老人保健施設いこいの森様 <https://youtu.be/PYXa6w7B0TM>

厚生労働省

LIFE(服薬管理)
連携対応!

Select Topics コアビジネスの注目トピックス



DXインサイト

お客様のデジタルトランスフォーメーション推進を支援し、ビジネス拡大に貢献 『RPAソリューション』

コアグループはRPAソリューションと当社が創業以来培ってきた技術ノウハウ、業務ノウハウをフルに活用、組み合わせることでお客様のデジタルトランスフォーメーション推進を支援し、ビジネス拡大に貢献します。
当社が持つ国内拠点の営業網を活用し、企業に対するDX（デジタルトランスフォーメーション）提案を加速するため、Blue Prism社とパートナー契約を締結しました。

Page

<https://www.core.co.jp/service/dx-insight/blueprism>

お知らせ

https://www.core.co.jp/system/files/2021-02/news_20210224.pdf

blueprism®

CORE
CORE GROUP



デジタルトランスフォーメーションの推進

ビジネスプロセス全体を担う
デジタルワーカー（仮想従業員）の提供

当社が持つ国内拠点の営業網を活用した
営業力強化

本資料に含まれる計画や業績見通し等は、現時点における情報をもとに、当社が計画・予測したものであり、今後の経済動向や市場環境等の様々な条件・要素により変動する可能性があります。

そのため、実際の業績がそれらの記述等と異なるリスクや不確実性がありますことを、予めご了承ください。



CORE
CORE GROUP

株式会社 コア

〒154-8552 東京都世田谷区三軒茶屋1-22-3 コアビル

☎ 03-3795-5111



www.core.co.jp